

### チーム連携での離床は重要だが・・・

- ① 一人では難しい。
- ② チームで離床を進めるためには？
- ③ 重要性はどこまで浸透している？
- ④ 効率的にチーム介入する方法は？

問題は様々である・・・



### 離床支援チーム

**Early Mobilization Assistance  
Team: E-MAT**

- 離床が難渋しているケースに対し、多職種で構成されたチームが、離床支援を行う。
- チームコラボレーションによって、離床を効率的且つ、円滑に進めることができる。

熊谷総合病院

### E-MATがある施設のチーム連携の現状

#### ①なぜ結成しようと思ったのか？

- 平成25年8月から始動
- リハビリテーション科 科長と看護部長の日々のコミュニケーションの中より自然発生した

#### ②活動の実際

- 全病棟科長とリハ科、NST担当管理栄養士、薬剤師が集まってラウンドとカンファレンスを開始
- 継続すること、煩雑な業務の中に如何に組み込んでいくかが難しい

#### ③チーム連携の変化

- 病棟スタッフのADL向上への意識改革
- 看護師の患者自主トレーニングメニューへの参加
- リハビリリ依存患者の増加

#### ④E-MATを取り入れた際のコッ

- 各所属、上司などの理解が不可欠
- 病棟を表裏で操る人間の動きをうまく導入する
- 「離床は必要」 but 「診療報酬上ではやらなくてもいい」 やってもコストに直接影響されないものである」
- という考えに対して先回りして行動する

## E-MATがない施設のチーム連携の現状

NST委員会、褥瘡対策委員会  
RST...などが介入している患者さん  
は離床が進みやすいが...



個人の意見としては、介入してい  
ない患者さんはベッドで臥床してい  
る傾向がある

## 問題点

リハビリでは起きているのにそれ  
以外の時間は臥床傾向

トイレ動作が行える能力があるの  
にバルーンバックが入ったまま

他にもありますが...

E-MATがあればよいと思うこと

1. 全身状態が安定した患者さん  
の早期離床が可能になる
2. 退院先の選択肢が増える可能性
3. 離床について他職種と話す機会  
がもっと増える
4. 患者さん自身のできることが増える



なぜE-MAT結成が  
難しいのか？

- ・ 平均在日数約10日のため、  
必要性を感じにくい
  - ・ 集まる時間が取れない
  - ・ 加算が取れない
- ...などの意見が他職種からありました